

CONTENTS 目次

- 2 目次／新年のごあいさつ
- 4 特集 クロストーク 市長×二十歳
- 8 まちの話題
- 12 市からのお知らせ
- 20 情報掲示板
- 22 施設からのお知らせ
- 24 ウィンターイルミネーション

COVER 表紙の写真



表紙の写真は、塩竈神社で新年を迎える準備の様子を撮影したものです。巫女として協力いただいたのは矢板中央高校2年生の郡司妃野さんです。元日は、郡司さんを含め5人の巫女さんが伊藤宮司と共に初詣客をお迎えします。

塩竈神社といえば季節の御朱印が人気ですが、1月は定番の籠のほか金文字や干支のウサギなどが描かれた縁起の良い限定御朱印です。一枚一枚伊藤宮司が手書きしたものをご用意しています。



POPULATION 人口 (12月1日現在)

30,976人 (△46)	出生 8人
男 15,438人 (△21)	死亡 35人
女 15,538人 (△25)	転入 54人
13,283世帯 (△3)	転出 73人
()内は11月1日との比較	※住民基本台帳をもとに算出
△は減	

矢板市長 齋藤 淳一郎

謹んで新年の

活用した「未来体育館」として、市民の皆さまの心とからだの健康づくりにも大いに役立てていきます。さらには、矢板駅東口に昨年相次いでオープンしたテレワーク施設「スローワーク矢板」と、「矢板ふるさと支援センターTAKIBI」はその連携により、先駆的な移住定住施策の展開が期待されているところです。

本年におきましても、「感染を防ぐ」「仕事を支える」「くらしを守る」を3つの柱とする「矢板市ウィズコロナ・物価高騰克服戦略」のもと、アフターコロナを見据え、市民の皆さまと、ふるさと矢板の未来を切り拓いてまいりますので、今後とも皆さまの一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、皆さまにとりまして、この新たな年が希望に溢れる一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



ご挨拶を申し上げます 令和5年元旦

皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、市政ならびに市議会の活動に對しまして、皆さまの温かいご理解と力強いご支援により、円滑な議会運営ができましたことに心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

昨年は、本市発展のため、議員定数についてさまざまな議論をしてまいりました。また、「開かれた議会」の実現のための議会改革を進めるにあたり、令和3年10月から1年間にわたり議会改革アドバイザー研修を実施してまいりました。班単位に分かれて行われた研修を通して、本市議会初の試みとなった一般質問における班代表質問の実施やパネルの活用など、議会改革を進めていく上で実りある研修となりました。

さらには、新型コロナウイルス感染症の感染状況が変動する中で、議会としても経済を停滞させない、議会改革を途切れさせないために、感染対策を徹底し、3年ぶりとなる常任委員会による行政視察や行政視察の受け入れ、飲食業組合をはじめ子育て世代や障がい福祉関係者との議会報告会などを行ってまいりました。今般のコロナ禍におきましても、皆さまのご理解を賜り、議会運営を進めることができたことに深く感謝いたします。

市政の運営にあたりましては、今年もまだまだ新型コロナウイルス感染症の動向に目が離せない状況であり、1日も早い終息を願いつつ、飲食業や、その関連産業をはじめとした社会・経済への影響も考えていかなければなりません。また、今後ますます深刻化していくことが予想される、少子高齢化、人口減少などの難題を抱えながら、社会資本の整備、教育や福祉のさらなる充実など、広範かつ、きめ細やかな行政サービスが求められております。

これら一つひとつの問題に向き合うため、これまで以上に市民の皆さまの多種多様な意見に耳を傾け、市政に適切に反映させ、市民満足度の高い市政運営が実現できますよう、議員それぞれが研鑽に努め資質の向上を図り熟議を進めてまいります。今後とも、市議会に對しまして、皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆さまにとりまして、本年が幸せで実り多い、大いなる飛躍の年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

矢板市議会議長 今井 勝巳



明けましておめでとございます。皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、「いちご一会とちぎ国体」が開催され、本市では「サッカー少年女子」と「軟式野球成年男子」の競技が実施されました。決勝戦まで実施された「サッカー少年女子」は、国体で初めて採用された種目であり、特に注目を集めました。

本市のサッカーは、昭和55年に開催した「栃の葉国体」の際、「サッカー少年男子」の競技会場になったことで、盛んになったという歴史があります。今回の「いちご一会とちぎ国体」において、「サッカー少年女子」の競技が実施され、同様に歴史に刻まれることを期待している中で、矢板中央高校に女子サッカー部が4月に創設されることは大変ありがたく、これから「国体レガシー」がどんどん広まっていくことを願っております。さらに、競技会場として大規模改修された緑新スタジアムYAITA、矢板運動公園サッカー場および野球場が、本市の地方創生の一環として取り組んでいる「スポーツツーリズム」の推進についても、大きな役割を果たしてくれるものと期待しております。

同じくスポーツツーリズムの拠点施設を担うことになる文化スポーツ複合施設整備事業も、建設工事に着手しました。最新のデジタル技術を用